

| | | | | | | | |
|---------------|---|------------------------|--|--------|----|----------|---|
| 科目名 (科目番号) | 公衆衛生学 (073211) | 教員名 横山 博子 | 学科等 | 看護 | 必修 | 履修年次 | 2 |
| | | | 曜日・時限等 | 時間割表参照 | | 単位数 | 2 |
| | | | オフィスアワー | | | | |
| 授業概要 | <p>1) 看護と公衆衛生とのかかわりを理解するために、わが国の衛生の動向を中心に、プライマリーヘルスケア活動の実際とその効果を学ぶ。</p> <p>2) 母子保健や地域保健など臨床分野別に公衆衛生の現状と課題を学習することで、医療が市民生活に与える影響を、医療・保健・福祉の連携の観点から考える。</p> <p>3) 近年重要視されている社会保障制度や医療制度改革、産業保健などについては、関連科目で履修した基本的知識を整理し、看護の現場で応用する力を身につける。</p> | | | | | | |
| 準備学習 | 毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること | | | | | | |
| 授業計画 | 回 | 授業項目 | 学習内容・到達目標 | | | | |
| | 1 | 序章 公衆衛生を学ぶにあたって | 到達目標: 公衆衛生とは何かをイメージできるようにする。 学習内容: 健康、プライマリーヘルスケアなどのキーワードから公衆衛生とは何かを学ぶ。 | | | | |
| | 2 | 第1章 公衆衛生のエッセンス | 到達目標: プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。 学習内容: 世界と日本の公衆衛生の歴史を学習する。 | | | | |
| | 3 | 第2章 公衆衛生の活動対象 | 到達目標: ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチを説明できる。 学習内容: 看護職と公衆衛生の関係を、社会集団を介在して学習する。 | | | | |
| | 4 | 第3章 公衆衛生のしくみ | 到達目標: 政策と計画、国と地方自治体の関係、専門職と看護職、住民との協働を理解する。 学習内容: 公衆衛生の仕組みを学習する。 | | | | |
| | 5 | 第4章 集団の健康をとらえるための手法—疫学 | 到達目標: 健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンスを理解する。 学習内容: 疫学と公衆衛生の関係を学習する。 | | | | |
| | 6 | 第5章 環境と健康 | 到達目標: 地球温暖化、アスベスト、水質汚染、廃棄物、バリアフリーを説明できる。 学習内容: 地球環境と健康、身のまわりの環境と健康、住環境と健康問題を学習する。 | | | | |
| | 7 | 第6章 感染症対策 | 到達目標: 感染症の成立要因、流行、予防、院内感染、感染症法を説明できる。 学習内容: 感染症の基本と主要な感染症と動向を学習する。 | | | | |
| | 8 | 第7章 国際保健 | 到達目標: 国際保健、健康格差、ミレニアム開発目標を説明できる。 学習内容: 健康格差を世界的視点で学ぶ。 | | | | |
| | 9 | 第8章 地域保健 A 母子保健 | 到達目標: 母子保健法、母子健康手帳、保健指導、母体保護法の概要を説明できる。 学習内容: 母子保健の概要と課題を学習する。 | | | | |
| | 10 | B 成人保健 | 到達目標: 健診・検診生活習慣病対策、がん対策、健康教育を説明できる。 学習内容: 成人保健の概要と課題を学習する。 | | | | |
| | 11 | C 高齢者保健 | 到達目標: 地域包括ケアシステム、高齢者保健の課題を説明できる。 学習内容: 高齢者保健の概要と課題を学習する。 | | | | |
| | 12 | D 精神保健 | 到達目標: 精神保健医療福祉の全体像を理解し、心の健康対策、自殺対策を説明できる。 学習内容: 精神保健の概要と課題を学習する。 | | | | |
| | 13 | 第9章 学校と健康 | 到達目標: 学校保健安全法、健康診断、感染症対応、学校環境衛生を説明できる。 学習内容: 学校保健の概要と課題を学習する。 | | | | |
| | 14 | 第10章 職場と健康 | 到達目標: 労働安全衛生法、労災、産業保健師・看護師を説明できる。 学習内容: 職場の健康管理の概要と課題を学習する。 | | | | |
| | 15 | 第11章 健康危機管理 災害保健 | 到達目標: 災害現場での保健活動の役割、危機管理における保健活動の実際を理解する。 学習内容: 健康危機管理体制、災害時の対応と保健を学ぶ。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 期末試験(100%)により評価する。 | | | | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 (第14版) | | 神馬 征峰 ほか 著 | | | 医学書院 | |
| 参考図書 | 国民衛生の動向 | | 厚生労働統計協会 | | | 厚生労働統計協会 | |
| 教員からのメッセージ | 授業の進度、そのほか必要に応じて、学習内容の順番を変更する場合があります。 | | | | | | |